



「後援会長交代のご挨拶」

第三代後援会長 水野登美子

お支えとお祈りを心から感謝いたします。2000年から2016年までの15年間、るうてるホームの後援会長として、皆様の祈りに支えられて職務を全うすることができました。この小さな器を育ててくださったこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は三代目の後援会長でした。一代目の内海季秋先生が20年間。二代目の宝珠山幸郎先生が15年間務めてくださいました。

20年、15年、そして私が15年、ちょうど昨年には創立五十周年の記念式典が開催されました。私自身、辛木姉、大原姉、

近藤姉のかばん持ちから始まった「るうてるホーム」との関わりでした。先人たちの苦労を思い起こしながら、胸が熱くなると共に、何よりも次の50年後の未来へと、この働きをつないでいく、新しい建物が与えられた喜びで胸が一杯になりました。

たくさんの方々の顔が思い浮かびます。しかし一番、私の中で大きなことは、これはすべて主の業であったという思いです。後援会の皆様、これからもどうぞ、るうてるホームのためにお祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

「るうてるホーム後援会長をお引き受けして」

第四代後援会長 徳野昌博

先日3月28日に行われた理事会・評議員会の席で、「現在の後援会会長、水野登美子さんの後を引き継ぐこととなります」と私のことが紹介されました。正式な引き継ぎは5月になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、日本福音ルーテル教会の牧師です。現在は東京の文京区にありますルーテル小石川教会を担当しています。

1995年からの3年間、大阪の天王寺

教会で牧師をしていました。るうてるホームが岡山県にあった時代ですが、日曜日の礼拝を定期的に担当したり、時にお葬儀の司式をしたこともありました。施設に関わることができるのは、牧師にとって、貴重な体験と思っています。

現在は評議員の一人として関わっていますが、2009年の8月から、るうてるホームでお世話になっている95歳になる母親のせいでしょうか、「水野さんの後、後援

会の会長をやりなさい」との理事長のお言葉。覚悟を決めてお引き受けいたしました。

水野さんよりは年齢は若いと思うのですが、気力の点でも行動力の点でも、そして、何よりも迫力の点でその足元にも及ばない

私です。ご理解とご協力をいただきつつ、その務めを果たしていきたいと思います。

今一度、後援会の皆様、職員の皆様、どうぞよろしく願いいたします。



「チャプレン交代のご挨拶」

主のみ名を讃美いたします。

2008年から、社会福祉法人るうてるホームのチャプレンを拝命してきました。るうてるホームは、その設立の頃から日本福音ルーテル大阪教会とのつながりが強くありました。歴代理事長の辛木姉、大原姉、近藤姉が大阪教会の会員であったというだけでなく、るうてるホームの設立時の事務所は、大阪市東区谷町3-1-6であり、まさに教会の一室からるうてるホームは生まれたのです。

よって設立当時から、るうてるホームの朝の礼拝、何よりも主日礼拝は大阪教会のブランチ集会として営まれてきましたし、大阪教会の牧師はるうてるホームの礼拝にも関わるということを伝統としてきました。月に二度は聖書研究会も担当してきました。

また「るうてるホーム」はキリスト教理念を形にするという意味では先駆的な施設でもありました。36年前、ホームは三浦芳夫先生をチャプレンとしてお迎えしたことがありました。そのご子息の三浦知夫先生も、大阪教会の牧師としてホームに関わっていただきましたので、先生方には二代にわたりホームはお世話になったことになります。ホームに居住しての働きでしたか

前チャプレン 滝田浩之

ら、密接な対応であったとお聞きしていません。残念ながら、一年後に芳夫先生は教会の仕事に就かれ、継続してチャプレンが置かれることはありませんでしたが、ホームにチャプレンという、キリストの香りを放つ存在が必要だという思いは、歴代の役員の方々、特に河田稔理事長には礼拝堂の構想のことも含めて強くあったのではないのでしょうか。

その思いを引き継がれた市原前理事長は、これまでの大阪教会の牧師としての働きに加えて、その役割をホーム全体の霊的なケアに置く事を目的に、「チャプレン」という職務を置かれ、現在では事業計画、事業報告というホーム全体の羅針盤ともいえる計画の中にはっきりと立場を与えてくださいました。

私自身は、伝統的に守られてきた大阪教会の牧師としての働きをこえた、ホーム全体の霊的なケアという役割を十分に果たせたかは自信がありません。これは、新たに就任してくださる大柴譲治先生に託したいと思います。そして、このチャプレンの働きが、ホームにとって大きな支えになっていくことを心からお祈りしていきたいと考えています。

本当に、たくさんの方々に支えられてきました。ありがとうございました。



「はじめまして」

新チャプレン 大柴譲治

このたび、るうてるホームのチャプレンに就任しました大阪教会牧師・大柴譲治です。西教区に21年振りに戻ってまいりました。最初ですから少し自己紹介をさせていただきます。

牧師になって今年でちょうど30年となります（同級生には立山忠浩、野村陽一、太田一彦、山田浩己、永吉秀人牧師ら）。

1986年3月に三原教会で教職按手を受け、福山教会で9年、米国フィラデルフィア神学校で2年、東教区のむさしの教会で19年を過ごしてまいりました。妻・賢珠（ひよんじゅ）と福山時代に与えられた三人の子供がおりますが、ちょうど子育てが終わる時期と今回の転任が重なり、4月よりは長女の麻奈が仙台で、長男の翔が静岡で、次女の佳奈が東京で、そして私たち夫婦が大阪での新しい生活を始めました。

大阪での生活は初めてですが、私の父・大柴俊和は吹田の出身で関西学院大学時代まで関西におりましたから、私も小さい頃には正月には祖父母のもとに何度も来ていました。父は後に全国レベルの開拓伝道で岡山教会の任を与えられ、私も1966年の夏から1971年春まで岡山で少年時代を過ごしました。

また、初任地・福山教会時代には西教区内で鍛えられました。当時広島には柏木信隆先生がおられましたし、西教区には石橋幸雄・河田稔・森勉・小泉潤という「四天王」が活躍しておられました。また市原・

松原・藤井（邦）・武村・野口（泰）・松隈先生らや、宣教師のカニンハム先生やラスムッセン先生にもお世話になりました。

30年前は西教区25の教会に25人の牧師が配置されていましたが、現在は隔世の感がありますが、私自身の原点に戻ることができたように思っています。力を尽くしてまいりますのでよろしくお願ひします。

復活の主イエス・キリストを仰ぎ見ながら、一緒に私たちに与えられたいのちをセブレイトしてまいりましょう。

<熊本の震災について>

この後援会ニュースを準備している時に熊本県を中心とした大規模な地震が発生したという大変なニュースが飛び込んできました。テレビなどで伝えられる情報はほんの一部で、各地の教会や福祉施設においても状況が刻一刻変わり、物資不足や人手不足が深刻になりつつあります。日本福音ルーテル教会では、ホームページにおいて「JELC ニュースブログ」で情報を発信し、九州教区の現地対策本部ではフェイスブックを利用して現地の生の声を伝えています。るうてるホームも物的な支援をすでにはじめています。

後援会の皆様におかれましても、是非心にとめていただき、ご支援をいただければ幸いです。

日本福音ルーテル教会ホームページ

<http://www.jelc.or.jp/>

日本福音ルーテル教会教区対策本部

<https://www.facebook.com/kumaeqhq/>

